2016.9.3 GEWANDHAUS 龍ヶ崎ゲヴァントハウス【オリジナルCDコンサート】

没後120年 第3回“ブルックナーの世界”／—追悼—中村紘子を偲ぶ

プログラム

今日は今年、没後120年に当たる音楽史上最も重要な交響曲作曲家、ブルックナーを特集するシリーズの第3回目をお送りします。また前半に、去る7月に亡くなった我が国を代表するピアニスト中村紘子の残されたライヴ音源をお聴き頂きこの名ピアニストを偲びたいと思います。

中村紘子は1944年7月25日山梨県生まれ。3歳からピアノを始め、桐朋学園の「子供のための音楽教室」の第1期生で、井口愛子に師事。1959年日本音楽コンクールで第1位特賞。1965年第7回ショパン国際ピアノ・コンクールで、第4位入賞と最年少者賞を併せて受賞。その後は国内外で精力的に演奏活動を続け、日本を代表するピアニストのひとりとして確固たる地位を築きました。今日は得意のロシア物、近年の演奏からお聴きください。

ブルックナーの「間奏曲」は当時の宮廷学長ヘルメスベルガー率いる四重奏団のために書かれた力作、弦楽五重奏曲のスケルツォの替わりの補遺曲として作曲された、明るくウィーン風の情緒豊かな小品です。ミサ曲第3番は1868年に第1稿、今日では1881年の第3稿での演奏が一般的です。大規模なオーケストラをバックに荘厳な響きと清楚な美しさは交響曲にはない世界で、作者の宗教曲を代表する傑作です。交響曲第7番は1883年に作曲され、1884年ニキシュの指揮で初演、大成功を収め、その名を一気に高めた名曲です。他の交響曲に比べ美しさが際立ち、ブルックナー特有の分厚い響きと力感、そして歌謡性も加わって独特の地位を占めています。ごゆっくりお楽しみください。 （中川）

＊＊＊＊＊＊＊

フレデリック・ショパン（1810～1849）：
マズルカ嬰ハ短調op.30-4

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）：
ピアノ・ソナタ第21番ハ長調op.53“ワルトシュタイン”～第1楽章、第3楽章から
中村紘子（ピアノ）
（2013. 10.20　サントリーホールでのLive）

セルゲイ・ラフマニノフ（1873～1943）：
ピアノ協奏曲第2番ハ短調op.18～第1楽章から、第2楽章から、第3楽章
中村紘子（ピアノ）
エフゲニ・スヴェトラーノフ指揮ソヴィエト国立交響楽団
（1983.10.20　大阪フェスティバルホールでのLive）

アントン・ブルックナー（1824～1896）：
弦楽五重奏のための“間奏曲ニ短調”
ラルキブデッリ
（1996.5.26　シュヴェチンゲン左側のコンサートホールでのLive）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

アントン・ブルックナー（1824～1896）：
ミサ曲第3番ヘ短調～「キリエ」から、「ベネディクトゥス」、「アニュス・デイ」から
ユリアーネ・バンゼ（ソプラノ）／クラウディア・マーンケ（アルト）
ドミニク・ヴォルティヒ（テノール）／マルクス・ブッター（バス）／ベルリン放送合唱団
ヘルベルト・ブロムシュテット指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
（2011.3.6　ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive）

交響曲第7番ホ長調（ノヴァーク版）～第1楽章から、第2楽章から、第4楽章
オイゲン・ヨッフム指揮アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団
（1986.9.17　昭和女子大学人見記念講堂でのLive）

★ホームページアドレス　http://www.bekkoame.ne.jp/~hippo/gewandhaus/